

令和5年度 県立鹿島灘高等学校自己評価表

目指す学校像	○ 創意と活力に満ち、生き生きと学ぶことのできる安全・安心な学校 ○ 一人一人を生かし、個性の伸長を図ることのできる学校 ○ 生徒自らが自信と誇りを持ち、活力にあふれた学校 ○ 地域に根ざし、信頼され期待される学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
(成果) 1 生徒の実態に即した学習指導の工夫改善と「分かる授業」の展開により、生徒が積極的に学習に取り組むようになった。 2 全教職員の共通理解・共通実践に基づいた生徒指導により、生徒は落ち着いた学校生活を送っている。 3 特別な支援を要する生徒について、中学校から個別の支援計画の引継ぎを行い、キャリア教育、就労支援に活用することができた。 4 スクールカウンセラーやキャンパスエイド、養護教諭、専門機関等との連携を密にとり、保護者の理解も深化した。また、問題の適切な解決につながった。専門的知見を交えた研修会の充実により個に応じた指導の推進が図られた。	1 基礎学力の定着と「分かる授業」の創意工夫	(1) 各種検定等の受検を奨励し、授業と連携しながら合格者の増加を図り、主体的に学ぶ学習態度の育成を目指す。 (2) 生徒の実態を踏まえた指導内容の精選、個に応じたきめ細かい指導の工夫及び改善を図ること、「分かる授業」を展開し、基礎学力の定着を目指す。 (3) 授業公開週間を設定し、教員相互の授業参観を行うなど校内研修を行い、授業改善推進チームを中心に、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を推進する。	A
	2 基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚	(1) あいさつ運動やマナーアップ運動、遅刻指導等を通して、基本的な生活習慣の確立を図る。 (2) 生徒への日常の「声かけ」を重視し、望ましい人間関係を構築することにより、規範意識の高揚を図るとともに、予防的・発達支持的生徒指導を実践する。 (3) 職員の共通理解に基づき、生徒自ら時と場に応じた身なりができるよう、日頃からの服装・頭髪の指導を推進する。	A
	3 特別活動の充実	(1) 学校行事やボランティア活動の充実を図り、達成感や連帯感の涵養と豊かなコミュニケーション能力、更に積極的に社会参画しようとする態度の育成を図る。 (2) LHR の充実を図るとともに、個人面談（4回／年）等を実施することで生徒理解に努め、心の居場所としてのホームルーム経営を工夫する。 (3) 生徒の部活動や学校行事等への積極的な参加を促し、学校の活性化を図るとともに、キャリアパスポートを作成し、社会性や協調性を育てる。	B
	4 進路指導の充実	(1) 全職員によるきめ細かい指導や各種セミナー、見学会等を改善充実させることにより、生徒の進路意識を高揚させ、進路決定率の向上、職場定着率の向上を図る。 (2) 進路行事の充実により、一貫したキャリア教育の体系を構築するとともに、個別の進路実現に向けた基礎学力の定着、面接指導の充実を図る。 (3) 特別な支援を要する生徒に対し、生涯にわたって自立し、社会参加していく力を育成するために特別支援学校、企業、社会福祉等の関係機関と連携を強化し、キャリア教育と就労支援を推進する。	A
(課題) 1 「分かる授業」に向けた一層の工夫改善により、基礎学力の定着と主体的な資格取得、ICT を用いた教員の指導力向上を推進する。 2 観点別評価を有効に活用し、生徒の主体的に授業に取り組む姿勢を育てる。 3 豊かなコミュニケーション能力や社会参加の意識を高めるため、学校行事の参加率向上や主体的なボランティア活動の	5 カウンセリングの充実	(1) 生徒の相談に対応できる教育相談体制の継続、また相談後は担任等との連携強化を図る。 (2) カウンセリングコーディネーター、スクールカウンセラー、養護教諭、キャンパスエイド等が相互に連携し生徒の心に寄り添うことで、一人一人が充実した学校生活を送れるような支援を目指す。 (3) 個々の生徒について教職員全体が共通理解をもって指導に当たれるよう、専門的知見も交えた研修の一層の充実を図る。	A

別紙様式 2

参加を図る。 4 生徒の進路実現に向け一貫したキャリア教育を推進し、就職先に定着しようとする意識を育てる。		6 開かれた学校づくりと地域との連携の推進	(1) 地域ボランティア活動への参加や積極的な学校公開、聴講生（陶芸、書道、中国語）制度の活用により、学校・家庭・地域社会が一体となった教育活動を推進する。 (2) ボランティア活動、防災訓練等の学校行事に保護者・地域住民が参加できるよう工夫改善し、開かれた学校づくりを推進する。 (3) 広報紙や学校HPを通して、本校の特色を積極的に広報し、フレックススクールとしての特色ある活動への理解と協力を得る。	B	
		7 働き方改革の実践	(1) 勤怠管理システムの活用を徹底し、時間外の在校時間等を各自が把握することによって、働き方への意識改革を図る。 (2) 職員の適性を生かした校務分掌配置を行い、職務の均整化を図る。	A	
三つの方針		具体的目標		評価	次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」（スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」（クラデュエーション・ポリシー）	(長期的目標) ・自立して社会人として地域に貢献できる人材 ・生活力を身に付け、強く生きる力を身につけた人材		B	B ・卒業時に望まれる生徒像として職員間で共有し、授業や学校行事等の目標設定に反映する。 ・生徒個々の特性や成長過程に配慮し、計画・実践する。生徒観察に基づき更に質を高めるための見直しを継続する。 ・中学校訪問や学校説明会において、本校が求める生徒像について周知する。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）	(中期的目標) ・単位制の特性を生かし、創意ある教育課程において主体的に学ぶ姿勢と確かな学力の育成 ・豊かな人間性を培うとともに、生涯にわたり学習する意欲と態度の育成 ・コミュニケーション能力と積極的に社会に参加し貢献する態度の育成		B	
	「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）	(短期的目標) ・物事に対して誠実に取り組み、自己成長のために日々努力できる生徒 ・公共心に富み、周囲への配慮や感謝の気持ちを忘れずに行動できる生徒		B	
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題
教科	国語	基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る	・漢字学びなおしプロジェクト（KMP）として、週末課題を出題し、基礎学力の向上を目指す。 ・辞書を引く機会を増やし、理解不足の語彙や事項について自ら調べる姿勢を養う。 ・プリントやICT機器等を使ったわかりやすい授業を展開し、対話を大切に授業を行う。 ・古典等においては、百人一首を学ぶことで古語の読みや日本文化に触れる機会とする。	B	B ・classroomを使用した週末課題の実施をシステム化する。 ・次年度から開講する新課程の科目に関する教材の作成とICT機器を活用した「分かりやすい」授業を実施していきたい。
		読解力、思考力、表現力を養う	・単元ごとにテーマに沿って記述したり、発表したりする機会を設定することで、読解力、思考力、表現力の向上を目指し、学習活動が個々の生徒の伸長につながったという充実感を高める。	B	
	地理歴史	地理・歴史分野に関する基礎・基本的な内容の定着を図る	・映像や地図、文字資料などを的確な場面で活用し、身近でわかりやすい授業を展開する。	B	B ・生徒がICTを活用しながら主体的に学び、表現することができ授業展開の工夫。 ・次年度より実施となる「地理探究」等の指導方法の研究。
			・学習内容を振り返る時間を適切にとり、その定着を図るとともに、時代や地域を比較させる力を身につけさせ、対話を大切に授業を展開する。	B	
	公民	現代社会の特色を広い視点から捉え、社会の諸問題について理解し、考える力を育てる	・社会のさまざまな諸問題に関する題材を適宜提示し、生徒に考えさせ表現させる。	A	A
			・各単元に即した資料や事例をもとに、現代社会の諸事象をわかりやすく説明する。	B	
			・少人数の授業では、生徒一人一人の関心に応じた学習を取り入れ、主体的な取り組みを促す。	A	
	数学	基礎学力の向上を図る	・少人数授業を実施することにより、個に応じたきめ細かい指導を実施する。	A	B ・継続して生徒の基礎学力向上に努める。 ・ICTを活用した授業の充実を図る。
			・習熟度別クラス分けをし、各レベルに応じた授業展開でそれぞれの基礎学力の向上を図る。	A	
		進路目標や学力段階に応じた指導に努める	・検定に向け意欲を喚起しながら、個のレベルに応じて数学検定の資格取得を目指す。	C	

別紙様式 2

教 育 科	理 科	分かる喜びを実感できる授業への改善に努める	・正解を導いた達成感や「数学の良さ」を感じさせる指導に努める。 ・「主体的・対話的で深い学び」につながる授業方法について検討し、実践する。	A	B	・生徒の実態にあった授業展開方法及び指導法について常に工夫する。			
		基礎学力の定着を図り、科学的に探究する授業への改善に努める	・身近な事物や現象を題材とし、日常の中の科学を意識させることで、自然に対する興味・関心を育みながら、基礎学力の定着を図る。 ・ICT機器を効果的に活用することで、各科目の内容を体系的に学び、科学的に探究しようとする意欲の向上を図る。	A B		・身近な事物や現象を題材として、授業を展開し、生徒の興味・関心を育むことができた。 ・生徒一人一人に合わせた教材の提示や指導を考えていきたい。			
	保 健 体 育	規律よく集団で行動できる力を育てる	・集団行動の授業を年度初めに行い、規律よく行動できる力を育てる。 ・集団行動を通して、全体と自分自身との価値観の違いを感じさせる。	A B	A	・生徒一人一人の実態にあわせた授業展開や指導できた。次年度も継続する。 ・ICTを活用した授業(体育)を展開したい。			
		精神力と体力を育て自主・自発的に活動できるように育てる。また、様々な選択肢の中から自分の個性を発揮できる能力を開発する	・生徒の実態に応じた導入の工夫をすることにより、怪我の未然防止に努め、基礎的な体力の保持増進及び運動能力の向上を図る。 ・生徒一人一人が自主的・自発的に活動できるような授業を展開する。	A B					
			・保健の授業を通して、生活習慣や性感染症の分野等から、基本的な生活習慣や性に関する正しい知識と理解を身に付ける学習を行う。 ・保健の応急処置の分野で心肺蘇生法を行い、緊急時に対応できる技能を身に付ける学習を行う。	A A					
			基礎力の定着を図る	・基礎的な知識や技術を習得することに重点を置き、繰り返し学習することで定着を図る。			A	A	・生徒の個に応じた表現力が発揮できるような授業を心掛ける。 ・ICTの効果的な活用を通して、生徒が達成感を抱く授業を展開させる。
			芸術文化に触れる	・芸術文化を味わうために、作品鑑賞の機会をできるだけ多く設けるように努める。			B		
		表現する喜びを味わうとともに芸術を愛好する心を育てる	・基礎力を活かして、創造的な表現や発表ができるようにし、一人一人が達成感を得られるようにする。	A					
	外 国 語 (英 語)	基礎学力の定着を図る	・夏休み前までは独自のプリントを活用し、単語や文法の基礎基本の知識を全員が理解できるようにする。 ・定期的に小テストを実施し、評価する。またその内容を定期試験の中でも出題し、重要事項の定着を図る。 ・各課が終わる毎に「音読テスト」を生徒個別に実施し、音声面での基礎学力の定着を図る。	A B	B	・単語や文法の学び直しを継続して行い、基礎学力の定着を図る。 ・音読をはじめ様々なパフォーマンス活動を取り入れ、生徒の自己表現につながる授業の工夫をする。 ・ICT活用に力を入れ生徒が楽しみながら学べる授業づくりをする。			
			英検受検者の増加を図る	・授業等でも英検に向け意欲を喚起しながら、級別または個別に課外を計画実施し、面接試験を含めてきめ細かい指導をする。			B		
		英語が分かる喜びを実感する授業への改善に努める	・ALTを積極的に活用してネイティブの英語に触れたり、英語での質問を多用したりすることで英語が「分かった、通じた」喜びを実感させる。 ・授業を公開し、生徒の実態に合った授業内容・方法等について教科内で研究協議し、その成果と課題を明らかにし改善策について検討する。ICTの活用にも取り組む。	B					
		家 庭	基礎力の定着を図る	・教科内で協議し、分野ごとに授業内容を精選し、生徒の実態に沿った分かりやすい授業を目指す。			A	A	・学習活動で、生徒がICTを活用できる場面を増やす。 ・実習がスムーズに行えるような教室環境の整備。
			実践力の育成に努める	・基本的技術の習得に重点を置いた教材の工夫をする。 ・個に応じた指導を行い、製作意欲の向上を図る。 ・技術検定を推奨し、希望者には補講を行う。			B		

別紙様式 2

	情報	現代の高度情報通信社会で必要な知識や技能を身につける	・一般的に使われる情報に関する用語の意味を理解させる。 ・情報の利活用とともに、情報モラルを身につけさせる。 ・プログラミングの基礎を学び、簡単なプログラムの作成ができるようにする。	B	B	・プログラミングの基礎の徹底ができなかった。次年度に向け準備をしていきたい。
	商業	実践的・体験的な学習活動を多く取り入れ、必要な資質・能力を育成する	・ビジネスに関する知識・技術の向上を図るとともに、職業人に求められる倫理観や創造的に解決する能力を養う。 ・面接やプレゼンテーション実習など、実践的・体験的な学習活動を多く取り入れ、実社会で活用できる知識・技術の習得を目指す。	A A	A	・やや内容の浅い副教材を使用したと思われるので、次年度はより深く知識・技術を探求できる副教材を取り入れたい。
教 務		授業時数の確保と偏りの調整に努める	・曜日と3部間の偏りの少ないバランスのとれた学校行事を計画し、教科の年間授業時数の偏りが少なくなるように努める。	B	A	・定期考査の日程ではやや偏りがでてしまった。 ・ICT活用における研修会を今後も年に数回実施して欲しい。 ・特定の人に仕事集中してしまっているのを改善したい。 できれば教員の数を増やしてほしい。 ・生活体験発表大会については仕事内容がきちんと伝わるようにデータを整理しておく。
		教務行事の円滑な運営と展開に努める	・各分掌と連携を取り、学校行事の日程やそれに伴う日課の調整を行い、学校運営を円滑に進める。 ・定期考査の日程や監督表を早めに作成するなど考査の円滑な運営を行う。 ・教務主催の集会や学校説明会などの行事を円滑に進める。学校説明会では中学生が本校を理解し、関心や興味を持てるように体験的な説明会にし、印象に残るように工夫する。	A		
		授業公開を行い、職員間で授業方法について学び合う機会とする	・各教科の授業公開週間を設定し、多くの教員が授業参観を行うように呼びかける。また、生徒にとっての「分かる授業」を考える機会とする。参観後の会話やレポート等により、教職員相互の授業や指導方法の向上を図る。	B		
		履修指導の充実を図る	・3回の個別履修期間を設定し、担任が相談を丁寧に行えるように資料等の準備を行い、生徒が適切な履修を行えるようにする。	A		
		ICT教育環境推進における対応を行う	・ICT教育環境の推進に伴い、職員が授業等においてスムーズに活用できるように説明や研修会等を行い、授業改善推進チームと連携を取りながらよりよく授業改善を行う。	A		
		広報活動の充実を図る	・学校ホームページの充実に努める。	A		
進路指導	生徒一人一人の進路実現を目指して、進路選択及び望ましい職業観・勤労観を育てる。さらに配慮を必要とする生徒の進路指導の充実を図る	・生徒個々の将来を見通した体系的な進路指導を行う。	A	A	・個に応じた進路支援を引き続き行う。産業社会実習を再開させ、生徒の就業体験の機会を増やす。	
		・コミュニケーション能力や協調性、基本的な生活態度を育てるために、就業体験等への参加を促す。	B			
		・進学することは幅広い職業選択につながることを理解させ、作文や志望理由等の指導及び面接指導を早期より実施し、実力をつけさせる。	A			
生徒指導	基本的生活習慣の確立を図り、家庭との連携を確充する マナーを身に付け、社会の一員としての意識の高揚を図る	・登校指導や巡回指導を通して、生活（挨拶・頭髪・服装・他）指導を行う。	A	A	・役割が一部に偏る傾向があるので、全職員の輪番制など、個々の教員に負担が偏らないような指導計画の構築等が次年度の課題である。	
		・家庭との連絡を密にし、相互理解に基づく指導を行う。	B			
		・生徒指導集会・HRを通して、マナーやルールの大切さを指導する。	A			
		・校外の巡回を行い、問題行動の未然防止に努める。	B			
		・校舎内の巡回を行い、問題行動の未然防止に努める。	A			
保健厚生	生徒が学習するための安全で衛生的な環境を整備する	・非常時帰宅方法のデータ管理など防災時に対する指導、環境整備に努める。	A	A	・文化祭で一般公開がある年度は授業時間確保なども考慮し、年1回の訓練は年度当初にこれまで通り実施を継続しつつ、2回目の防災訓練は時間短縮や隔年実施も検討した	
		・清掃活動を積極的に行い、教室や学校内の環境美化に努める。	A			
		・クリーン作戦などの活動を通して、愛校心やボランティア精神を育む。	A			
	規則正しい生活を送るための心身の健康の充実に努めると共に危機管理能力を高める	・防災に備え備蓄品の整理、更新、管理を行う。	A			
		・防災避難訓練を通して、危機管理について意識させる。	A			
		・健康診断結果や調査結果を活用し、健康上の問題点を早期に把握する。	A			

別紙様式 2

		・日常の健康状態から個々の生活習慣を把握し、規則正しい生活が送れるよう支援する。	A		い。
教育相談	困り感を抱える生徒や気になる生徒へ支援体制の充実を図る	・困り感を抱える生徒の早期発見と早期対応のため、カウンセリングコーディネーター・担任・年次主任・養護教諭・スクールカウンセラー・キャンパスエイドとの連携を密にし、情報の収集に努める。	A	A	・困り感を抱える生徒について担任の先生が教育相談部に報告してくれることにより早期対応の体制が整いつつある。リストカット、希死念慮に教員がどう対応したらいいのか、セオリー的なものを職員で共通理解できるようにしていくことが課題。
		・スクールカウンセラーを利用した支援体制と相談活動の充実を図る。	A		
		・特別支援教育への理解を図る。	A		
		・教職員研修会の実施により、生徒理解を深め生徒対応について学ぶ。	A		
		・キャンパスエイド活動の充実を図る。	A		
	保護者の支援体制の充実を図る	・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを活用し、支援体制と相談活動の充実を図る。	A		
渉 外	総会の工夫と、保護者の学校への協力体制を向上させる	・PTA総会の開催方法を工夫し、保護者の負担が大きくならないよう、参加しやすい形態で実施する。	A	A	保護者の負担をかけないPTA総会を、今後も工夫しながら開催する。魅力ある広報誌とするために、生徒を中心とした紙面づくりを継続する。
		・PTAA評議委員会やPTA総会を通して、保護者の学校への協力体制の向上を図る。	A		
	学校の様子や状況をより多くの保護者に発信し、連携を図る	・広報誌「はまなす」を発行し、魅力ある紙面づくりを心がけ、生徒の学習活動や学校行事の様子など、生き生きとした姿を保護者に伝える。	A		
特別活動	生徒一人一人が積極的、主体的に取り組む生徒会活動を促進する	・自発的・自主的な活動が展開されるように助言や指導を行う。	A	A	・各行事等問題なく実施できた。 ・生徒一人一人が各行事に対して積極的に主体的に取り組めた。 ・次年度以降も魅力的な行事を企画運営し、生徒の活動の場をつくり豊かなコミュニケーション力の育成を図る。 ・部員を増やす・教員の協力意識の向上
		・生徒自らが活躍できる場面を多くつくる。	A		
	ホームルーム活動、委員会活動部活動の活性化を図る	・創意工夫あるホームルーム計画ならびに運営を援助する。	A		
		・部活動推進及び委員会活動の活発化を図るために内容を精選する。	B		
		・学校の特色を生かしたそれぞれの活動により、学校の活性化を図る。	A		
	生徒が生き生きと取り組む学校行事の企画・運営に努める	・学校行事を充実させ、キャリアパスポートの活用等を通して、達成感や連帯感を涵養する。 ・学校行事の改善・精選を行う。	A A		
1 年次	基本的生活習慣の確立	・清潔感ある頭髮と身だしなみを心掛け、挨拶や返事を励行させる。 ・集団生活のマナーを身に付けさせる。	A	A	・年次行事は天候等の変更があったが、代替日を設けることにより、計画通りに実施できた。 ・不安を抱える生徒や長欠者は生徒と保護者との連絡を密に取ることを心掛け、SCやSSWに繋げる指導を行ったが、根本的な解決には至っていない。
		・生徒指導集会、「道徳」やLHR等を通して、規範意識の向上を図る。	A		
	学校生活の充実	・「道徳」（グループワーク）やLHR活動を通じてコミュニケーション能力を高める。	A		
		・個別面談・保護者との面談を通して、生徒理解に努め円滑な学校生活を送ることが出来るように働きかける。	A		
		・生徒の能力に応じた学習目標を設定し、学習意欲を向上させる。	A		
	各々に応じた適切な進路指導	・生徒の進路目標に適した資格取得・検定試験のためのフォローをし、各々に応じた適切な進路情報の提供及び助言を行う。	A		
2 年次	基本的生活習慣の確立の徹底を図る	・生徒一人一人の個性を尊重し、保護者との連携を通して基本的生活習慣の確立に重点を置いた指導を行う。 ・教室環境の整備と衛生指導を通して、健康で安全な生活が送れるように支援する。	A	B	・進路に関してより年次内で協力しつつ生徒に情報を共有しつつ心構えと具体的目標を持たせるよう工夫していきたい。 ・生徒個々の課題により具体的
	学校生活の充実と基礎学力の向上を図る	・生徒個々の課題を明確にしそれに対応することで、学校生活と学習意欲の向上を図る。 ・主にLHRや総合また日々の授業を通して、コミュニケーション能力を高める。	B		

別紙様式 2

	進路の実現に向けて個に応じた指導を行う	・職業と働き方について考えさせ、ライフプランをイメージさせることにより、将来社会を担う一員となる自覚と卒業後の進路に対する目標をもたせる。 ・個々の生徒の意欲と適性に応じた進路情報を提供するとともに、全体的な資格取得指導やガイダンスを行う。	B		に対応していきたい。 ・生徒と保護者とのコミュニケーションを密にして安心・安全な学校づくりにより努めたい。
3年次	進路指導の徹底を図る	・生徒の進路意識の高揚を促し、個別指導を主に対応する。面接指導や面談を通して情報の提供を適切に行い、自らの進路に対して的確な判断ができるようにする。 ・進路指導が円滑に進むよう、進路指導部および保護者との連携を密にする。	B	A	・進路についての進路指導及び面接指導については、進路指導部とともに粘り強い指導を行えた一方で、志望企業及び志望校についてはよりきめ細やかな精査を必要とする。 ・基礎生活の定着は向上がみられたので、自発的な意欲の部分でのさらなる向上を目指したい。
	基礎学力の向上と個に応じた指導を行う	・授業に真摯な態度で取り組み、自ら積極的に学ぶ姿勢を身に付けさせる。 ・各種検定試験への積極的な取り組みを通じて、目標達成の自信と喜びを得られるように援助する。	A		
	基本的生活習慣の定着を図る	・日常的に時間を守り、規則正しい生活を送れるようにする。 ・服装、身だしなみを整え、特に卒業年次としての責任感を持って行動できるようにする。	A		
4, 5年次	生徒指導の充実を図る	・年次間の連携および家庭との連携を密にし、個に応じた指導を心がける。	A	A	卒業に向けて個に応じた対応は行えたが、併せて進路の自己実現に向けてもよりきめ細やかな指導をしていきたい。
	進路希望の実現を図る	・面接指導や面談を通じて情報の収集や提供を適切に行い、自らの進路に対して的確な判断ができるようにする。	B		

※ 評価規準： A：あてはまる。 B：ややあてはまる。 C：どちらともいえない。 D：あまりあてはまらない。 E：あてはまらない。